

● 優秀賞

いきいきと英語に慣れ親しむ子をめざして ～学級担任にもできる楽しい英語の授業10のポイント～

(執筆代表者) 愛知県西尾市立花ノ木小学校研究推進委員会 うえだ ふきこ 上田富喜子

1 はじめに

昨年は、ワールドカップがあった。世界中の人々が来日し、さまざまな民族の人が一緒に応援を行い、喜びや興奮、感動を分かち合った。今や世界中の情報・人・ものが国境を越えて激しく行き来する、まさに国際化の時代である。このような社会の中で生きる子どもたちに、今求められるものは、国際人としての資質である。それは、たとえ言葉が通じなくても、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度であり、自分の考えを持ち、主体的に自分を表現できる力である。

西尾市は、ニュージーランドのポリリア市と姉妹都市であり、さらに本校は同市ディスカバリースクールの姉妹校として、交流を深めている。このような環境のもとで、子どもたちは、英語学習や外国の文化に自然に興味を持つことができる。小学校の時期に、英語にふれ、英語に慣れ親しむことは、これからの国際人の育成に役立つものと考えられる。

2 研究の仮説

英語の授業は、各学年、最低でも週あたり1時間はほしい。また、小学校の場合、担任が授業を行うことが現実的である。楽しく英語の授業をできるようにすることが、これからの小学校の学級担任に必要なことになる。

研究の仮説を、「学級担任が楽しい授業を行えば、いきいきと英語に慣れ親しむ子どもたちになるだろう」とし、研究主題を「いき

いきと英語に慣れ親しむ子をめざして～学級担任にもできる楽しい英語の授業10のポイント～」とした。

3 楽しい英語にするための10のポイント

(1)「年問題材一覧表」と「基本語彙・フレーズの一覧表」～6年間を見通せ！～

子どもの発達段階を考慮し、生活に密着した題材にするために、6年間を見通したカリキュラムを作る。

授業展開案は、原則として、各担任あるいは各学年で作成する。しかし、英語の免許を持たない学級担任が授業するということが心配される。そこで本校独特のカリキュラムとして、1年から6年までの題材の配列や扱う語彙やフレーズを検討し、年問題材一覧表と基本語彙・フレーズの一覧表を作成した(資料1)。学級担任は、これらをもとに単元を構想し、毎時間の授業案を作成することができる。題材は、子どもの発達段階に合い、生活に密着したものを選んだ。

例えば、2年生で“What's this?”を学習し、3年生では、“What ~ do you like?” “What time is it?” 5年生では、“What is your hobby?” というように“What”を使ったフレーズで発達段階にあったものを取り上げていった。

平成13年度 年間題材一覧表							
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
9月	どうぶつと なかよし	これ、なあに？	知ってる？ ※	スポーツを しよう	わたしの家へ ようこそ	外国の人と 話そう	
10月	すきなもの ※	これ、ちょうだい	これだれの？	ハッピー バースデー	道案内をしよう	電話で話そう	
11月	からだのなまえ	へんしんしよう	基本語彙・基本フレーズの表 (No.2)				
12月	メリー クリスマス	メリー クリスマス					
1月	ゲームをしよう	ゲームをしよう	2年	9月	10月	11月	12月
2月	どっちかな？ ※	ほく・わたしの かぞく	4年	What's this?	One ~, please. O. K. Here you are. Thank you. You're welcome.	Take off your ~. Put on your ~. cap, hat, shirts, pants, shoes, socks	Merry Christmas. I want this.
3月	かいものを しよう	かいものを しよう	Let's play ~. O. K. Let's do ~. O. K. Come on. Go! Go!	When is your birthday? It's ~. Happy birthday. This is for you.	Let's go ~ing. O. K. Sorry, I can't.	What do you want for Christmas? I want ~. This is for you.	
			6年	May I talk to you?	Hello. This is ~.		What do you want for

●資料1/年間題材一覧と基本語彙・フレーズの表



●写真1/HRTとSATによるスキット

(2) 授業形態 ～お助け先生 (SAT) 登場～

スキットを分かりやすく紹介するために、隣のクラスの先生がスキット・アシスタント・ティーチャーとなって授業の途中で登場する。

AETとHRTによるTTの他に、本校独自の指導形態として、HRTとSATによるTTを確立した。隣のクラス先生がSAT (スキット・アシスタント・ティーチャー) になり、スキット場面やゲームの説明場面ではほんの10分間ほど登場することで、場面把握が容易になり、大きな助けとなっている。

3年「今、何時？」の第2時では、HRTがミッフィー、SATがミッフィーの母親に

HRT : I'm hungry. What time is it?
SAT : It's three.
HRT : It's snack time.
SAT : Yes. Here you are.
HRT : Thank you. I'm happy.

●資料2/第2時のスキット

なり、今までに習った表現も取り入れてスキットを紹介した(写真1・資料2)。スナックは普段よく耳にする言葉であるので、このスキットはおやつ時の会話であることを、子どもたちは容易に理解した。また、HRTとSATが親子のキャラクターを演じたことが、おやつ時間のイメージ作りに役立った。意味が分かったかと尋ねると、一斉に“Yes! One more time.”と楽しそうに叫んだ。感想にも「スキットがよくわかった」「おもしろかった」という内容が多く見られた。その他にも“It's lunch time.” “It's free time.” “It's cleaning time.”を紹介したが、すぐに意味を理解できた。

(3) 授業の基本パターン

～リズムによってスピーディーに～

授業をテンポよく進めるために、授業の流れの基本パターンを決める (資料3)。

本校の英語の授業では、子どもたちがたく

- ①あいさつ
- ②歌
- ③チャンツ
- ④復習ゲーム
- ⑤本時のスキット
- ⑥チャンツ
- ⑦本時のスキットを使ったゲーム
- ⑧自己評価
- ⑨あいさつ

●資料3／授業の基本パターン

さんの英語を聞き、自然な形で英語を覚えることを目標としている。そのためにクラスルーム・イングリッシュをふんだんに使い、日本語で長々と説明する代わりに必要最小限の指示で、スピーディーな活動の切り替えを心がけている。

例えばゲーム活動では、“This is how to play the game. Please listen carefully.”の指示で、子どもたちは一斉に集中する。中には、「イエーイ！」とかけ声をかけて、盛り上げてくれる子どももいる。教師と子どもたちの呼吸がぴったり合い、楽しい授業を一緒に作り上げているということを実感する瞬間である。

(4) リズムチャンツ

～英語独特のイントネーションを～

英語が持つ特有の強弱やイントネーションを身につけるために、リズムチャンツを使ったリピート練習をする。

子どもたちにとって耳慣れない英語をよりネイティブに近く発音できるようにさせたいと思うのは、教師の願いである。単調なリピート練習を行うと、集中力を欠き、楽しさも半減する。また、ネイティブから聞こえた言葉をカタカナに置きかえ、日本語調に発音する子どももいる。そこで、ウッドブロック等を使い、リズムチャンツにして、リズムカル

に練習することにした。このリズムは、英語独特の強弱やイントネーション、間合いを自然な形で身につけることができる(写真2)。



●写真2／リズムチャンツ

4年生「あいさつチャンツ」は、“Good morning.”から始まり、“How is the weather?” “What day is today?”までの授業の始まりのあいさつをチャンツのリズムにのせて行うもので、授業を自然に英語の雰囲気のにせてしまう。さらに、高学年になると会話も長くなり複雑になっていくが、チャンツのリズムに合わせて学習していくことで、スムーズに言うことができる。「何と言ったらよいか忘れていたフレーズもチャンツのリズムを聞いたら、思い出してすらすら言えた」などの感想も多い。ウッドブロックを使ってのチャンツは、チャンツのスピードを変えたり、リーダー(最初に発音をする人)を子どもに交代でやらせたり、対話形式にしたり、ゲーム形式にしたりと、さまざまなバリエーションを加えることができる。

(5) リスニングテープ

～ネイティブと対話を～

AETのいない授業時に、生の英語と楽しく触れ合うように、会話形式のテープを作成する。

本校の作成しているリスニングテープ(資料4)は、中学校等で使用されている英単語のリピートや教科書本文のリスニングといったも

- ・ Hello, everyone. How are you?
(I'm fine.....)
- ・ Now, it's quiz time. Please listen
and answer.....
- ・ Quiz No.1. What time is it?
It's 3:00.....
- ・ The listening quiz is over.
See you again.

●資料4/AETによるリスニングテープ(抜粋)

のとは違う。そのテープを流しているとき、その場にネイティヴがいるかのように会話を楽しむことができるものである。AETがない授業でも、ネイティヴの英語を聞くことができ、児童も楽しくテープの世界に入ることができる。

3年「今、何時?」では、このリスニングテープをクイズ形式で作成し、使用した。担任が時計カードを用意し、テープを流す。テープは、あいさつから始まり、「What time is it?」「It's twelve.」といったクイズに入っていく。そして、結果のチェックがあり、最後はあいさつをして終了する。子どもはテープに合わせて○×のジェスチャーをし、テープの中のAETとの空間を楽しんでいる。「ロリーナ先生が本当にいたみたいでうれしかった」という感想を書く子どももいた。リスニングテープはネイティヴがいないときの授業作りにはならないアイテムである。

(6)教材作り ～愛情いっぱい手作り～

子どもが活動に夢中になれるように、具体物や絵カード、プリントなどを手作りする。

単元で扱う題材が、子どもたちの生活に身近であっても、基本語彙・フレーズの繰り返しだけでは、学習意欲を高めることは難しい。活動を通して子どもたちが楽しみながら学習できる教材が必要となってくる。そこで、子どもが思わず引き込まれるような具体物や絵

カード、プリントなどを毎時間準備した。

2年「変身しよう」では、「put on」「take off」という動作を表す英語を学習する。この時、教材として身につけられるものを、子どもたちと作成することにした。子どもたちは帽子やめがね、ネックレスなどいろいろ考えながら、喜々として作っていた。変身ゲームではじゃんけんに勝った子が「Please put on your ○○.」「Please take off your ○○.」と命令し、負けた子が言われたとおりの動作を行った。ゲームが始まると、自分も英語の指示を出したいという意欲が見られ、指示された方もうれしそうに指示に従っていた。実際に自分たちの作ったものを介して会話が成り立つ喜びが学習の意欲につながったと考えられる。学習後、教室で帽子をかぶっている子に、「Please take off your cap.」と注意する姿も見られた。



●写真3/変身ゲーム

(7)ゲーム ～興奮の渦、ゲームタイム～

新しいフレーズを自然に身につけるために、楽しいゲームを行う。

学習したことをすぐに使ってみたいと思うことは、ごく当たり前の欲求である。そこで本校では、スキットの練習の後、必ずゲームタイムを設定している。今学習したことを、ゲームを行う中で、繰り返し繰り返し発音し、

身につけていく。そこで言えたという満足感が次への意欲につながる。ゲームには、伝言ゲーム、ビンゴ、仲間探しゲーム、インタビューゲームなどいろいろあるが、これらはどの学年にも使える。

ここでは、4年生で学習する“What ~ do you like?” “I like ~.”の基本フレーズを使ったハンカチ取りゲームを紹介する(資料5、写真4)。

☆用意するもの ハンカチ

☆進め方

- ①好きな食べ物をいくつか挙げておき、その中からキーワードを1つ決める。(例えば、キーワードをcookiesとする。)
- ②二人一組になり、机の上にハンカチを1枚置く。
- ③両手を頭の上に乗せて全員で“What food do you like?”と聞き、教師は、そのつど、“I like pizza.” “I like cakes.”など、自由に答える。
- ④教師が“I like cookies.”とキーワードを言った時、子どもたちはすばやくハンカチを取る。

*動物、色、趣味、スポーツなど題材をいろいろ変えて使える。

●資料5/ハンカチ取りゲーム



●写真4/ハンカチ取りゲーム

子どもたちは、両手を頭に乗せると、“What food do you like?”と大きな声でたず

ね、教師の答えに耳を澄ます。キーワードを聞き落とすと、ゲームに負けてしまうからだ。「たずねては聞く」を何回も繰り返す。中には、お手つきをしてしまう子もいる。キーワードが出ると、教室中に机をたたく音が響き渡る。それと同時に「やったあ!」「くやしい!」など興奮の歓声があがる。

夢中になりながら、いつの間にかフレーズが身につくゲームは、英語学習にはなくてはならないものといえる。

(8)スキット作り ~広がる英会話~

自分のことばで話したい、自分の思いを伝えたいという子どもの意欲を大切にするため、スキット作りを中心とした単元を設定する。

1年生から英語に慣れ親しんだ子どもたちは、5年生ともなると与えられたスキットをいうだけでは飽きたらず、できれば自分で考えた会話をしてみたいという欲求を持つようになってくる。

その欲求が満たされる場となったのが、5年「私の家へようこそ」の第3時での簡単なスキット作りであった。子どもたちは、まず日本語で友達を家に招いたら一体どんな会話になるだろうかと考えた。そして、その日本語を英語になおしてスキット作りをしていった。言い方がわからないときには、“How do you say ○○ in English?”を使ってAETに聞くようにした。AETもとても簡単な言い回しを教えてくれ、これまでの学習が生かせる形に持って行ってくれた。班の子どもそれぞれが一人一役を担って、寸劇仕立てで表現することが目新しく、会話作りを楽しんでいた(写真5、資料6)。授業後の感想の欄に「今日の授業は楽しかったです。もっとやりたい」と書いた子どもが多かった。5年生ともなるとこれまでに学んできたことを生かして、自分の力で会話を成立させることが、自分も英語を使えるようになったという達成感のよう

なものを感じられて嬉しいようだ。これまでの学習の総復習もでき、5年生にとって意義のある学習となった。



●写真5/AETと会話する

a : Which do you like baseball or soccer?
b : I like soccer.
a : Which player do you like best?
b : I like Syunnsuke best.
a : Oh, he is a good player.
b : Yes, that's right.

●資料6/子どもたちが考えたスキット

(9) 修学旅行英会話タイム

～わくわくドキドキチャレンジ～

6年間の英語学習を生かすために、奈良や京都を巡る修学旅行の日程の中に外国旅行者に話しかける英会話タイムを設ける。

まず、旅先で出会った外国人に話しかけるスキットを吟味し、「外国の人と話そう」という指導計画を立てた。「出身地を聞く」「サインをもらう」「写真を一緒に撮らせてもらう」という基本フレーズの他に、子どもたちは“What Japanese food do you like?” “What is your hobby?” など、既習のフレーズを練習し、修学旅行に臨んだ。

修学旅行当日。清水寺周辺が英会話タイムであった。どの子も見知らぬ外国の方に話しかけるのは初めての体験である。最初は戸惑いながらそれでも勇気を出して“Excuse me.”と話しかけ始めた(写真6)。緊張しながら

子どもたちは、サインをもらい、一緒に写真を撮ることができた。集合場所にいる教師に、子どもたちは興奮した様子で「初め、すごくドキドキしちゃった」「ぼくの英語が通じた」など、次々に報告した。どの子どもも、初めての体験に満足そうであった。「これからもこういう機会があったら話したい」という感想を書く子どもも多く、この学習は、6年間のまとめとしてだけでなく、コミュニケーションの意欲を高めるのにも非常に有効であった。



●写真6/修学旅行で外国人旅行者に話しかける

(10) 単元開発 ～子どもの心をとらえて～

子どもの心をとらえる授業にするために、子どもたちの生活をよく観察し、よりよい単元を開発していく。

2年生の7月は、基本的なことを学ぼうと、月や曜日の名前や体の調子を伝える場面を学習することになっていた。しかし、学習内容が単調で子どもたちの興味・関心も今一歩であった。そこで、3時間単元で虫を題材とし、動詞 get を扱った単元「つかまえて」を開発した(写真7)。虫は、子どもたちにとって大変身近で、大好きな題材である。ちょうど同じ時期に、生活科の学習で生きもの教材も扱っており、2年生の子どもたちにタイムリーな内容である。扱う単語は児童の発達段階を考慮し、虫の種類と発音のしやすさから、beetle, butterfly, cicada, dragonfly, ladybugの5つを選んだ。さらに、get を扱うことによ

って、虫の名前だけでなく、虫を捕る・つかまえるといった子どもたちにとって身近で具体的な活動を楽しみながらできると考えた。

“Get a ~.” “O.K.” のスキット紹介に「本当に虫捕りしてる」「やってみたい」と喜び、学習したことを生かすゲームでは、虫捕りの擬似体験のできるゲーム教材を開発することによって、どの子どもも楽しみながら何度も繰り返してゲームに挑戦していた。本単元は、2年生のこの時期の子どもたちに大変適した内容であった。

その他、「これ、誰の？」や「どこにありますか？」など、身近な生活からの単元をいくつか開発した。



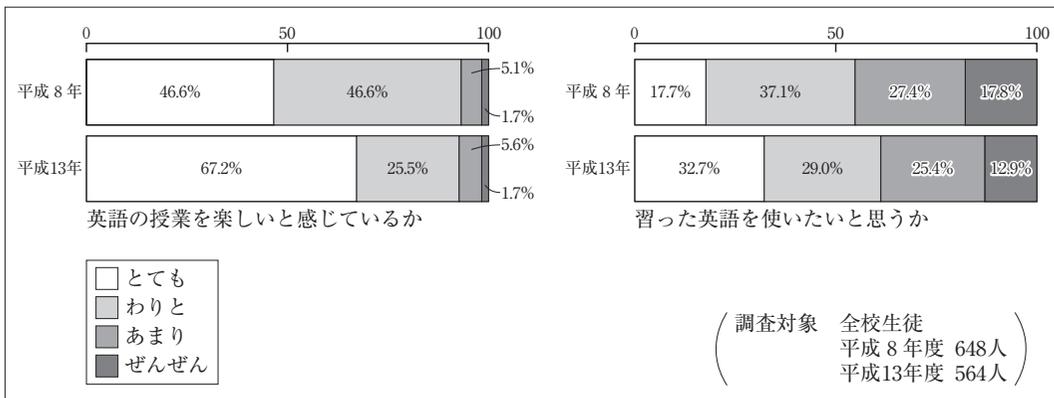
●写真7／英語で虫捕り

4 | 研究のまとめ

毎時間ごとに児童は、「今日の学習は楽しかったか」「進んで聞いたり話したりできたか」についての自己評価と感想を書く。教師は、指導上気づいたことと感想を書き、授業記録として今後に生かしている。また、研究が始まった平成8年度と平成13年度に「英語について子どもたちはどのようにとらえているか」についてアンケートを行った。その結果から次のような研究の成果が明らかになった(資料7)。

英語の授業を楽しんでいる子どもがとても多い。また、学習したことを使おうとする意欲や物怖じせず外国の人に話しかけようとする子どもも増えてきている。また、放課後などの遊びの中で“Are you ready?”や“Ready go!”を当たり前のように使っている子どもたちの姿が見られる。

これらの成果は、本校の考えた「学級担任にもできる楽しい英語の授業10のポイント」が有効であることを示している。そして、何よりも本校の教師集団の6年間にわたるたゆまぬ努力と創意工夫の成果である。これからも子どもの実態に合わせ、地道な努力を積み重ねていきたい。



●資料7／英語学習に関するアンケート